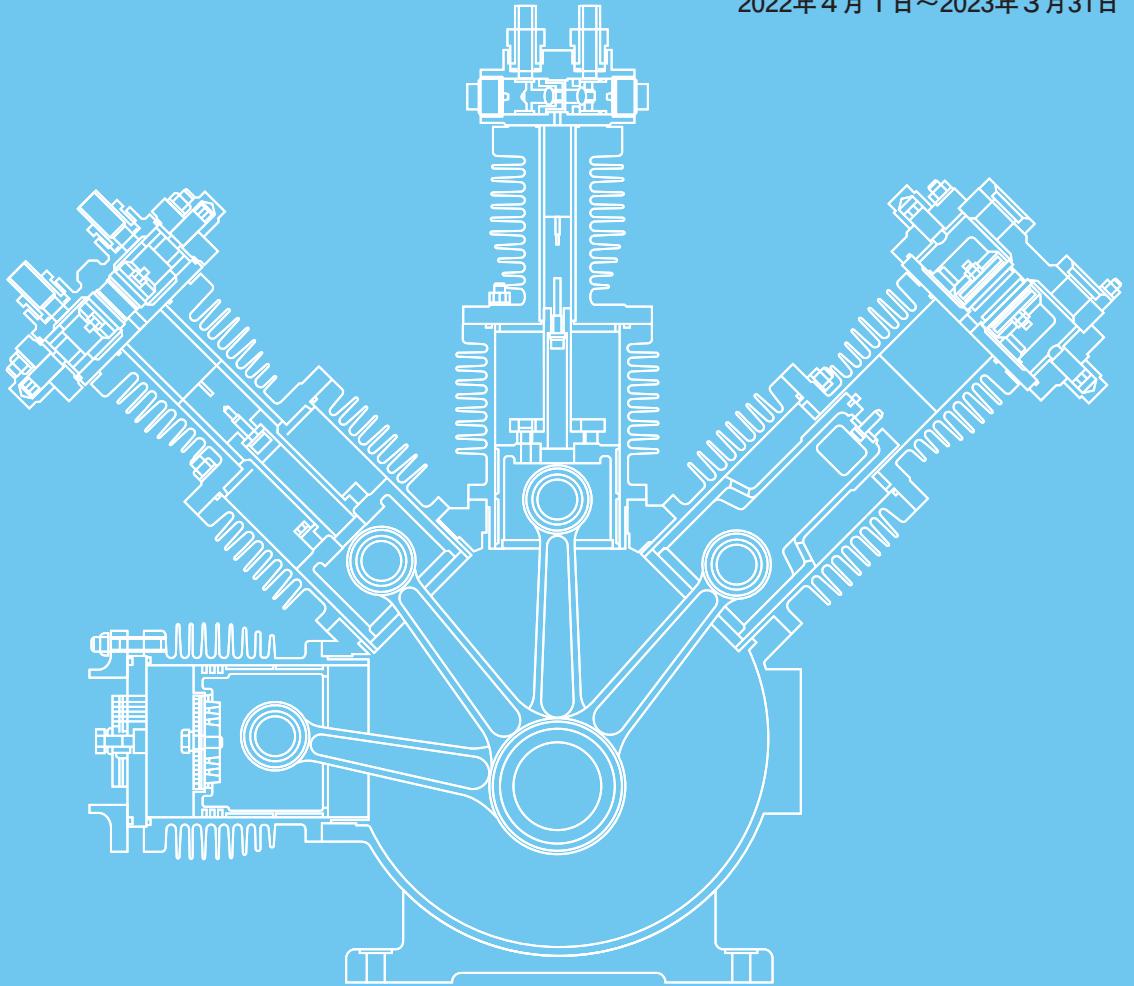


# 株主通信

## 第90期期末報告書

2022年4月1日～2023年3月31日



この報告書は、環境に配慮し、  
植物油インキを使用しており  
ます。



株式会社加地テック

# 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私はこの度株主総会において当社取締役役に選任され、続く取締役会において代表取締役社長に指名されました松岡克憲でございます。ここに、第90期（2022年度）の株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

## 当事業年度の業績について

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う規制が徐々に緩和され、回復の兆しは見られましたが、円安ドル高の進行や長期化するウクライナ情勢不安の影響による原材料価格の高騰、米銀の破綻を発端とした欧米の金融システム不安などから依然として不透明な状況が続いております。

このような状況下、当事業年度における当社業績は、売上高は5,975百万円（前年同期比30.5%増）、営業利益は237百万円（前年同期比45.5%減）と前年同期比で増収減益となりました。

増収の主な要因は、カーボンニュートラル市場向けの開発設備・試験用圧縮機の販売等によるものです。減益の主な要因は、原材料の高騰等により各案件の採算が悪化したことに加え、カーボンニュートラル関連の研究開発費の増加等で販売費及び一般管理費が増加したためです。

## 2023中期経営計画（2023年度－2025年度）について

当社は昨年6月に発表した『KAJI 2030VISION』において、当社が目指す「2030年のありたい姿」を「超高压技術でカーボンニュートラル社会の実現に貢献する「モノづくり」&「ソリューションサービス」企業」と定め、カーボンニュートラル社会の実現に要求される製品を開発し、超高压圧縮技術で常にカーボンニュートラル市場をリードし、地球環境の保全に貢献する企業となることを宣言しました。

『2023中期経営計画』は、この『KAJI 2030VISION』の実現に向けた第一ステップとして、「2030年のありたい姿」をバックキャストで戦略を実行するために、2023年度から2025年度までの3カ年の中期経営計画として策定いたしました。既存市場における圧縮機ビジネスにおいて事業拡大と収益力を向上させ、その原資を基に来るべきカーボンニュートラル社会の実現に向けた製品開発・商品化を推進し、カーボンニュートラルに向けた新しい市場において超高压圧縮技術でトップシェアとなることを目指し、以下の基本方針とそれを実現するための戦略を策定しております。

### 【2023中期経営計画の基本方針と戦略】

基本方針① カーボンニュートラル社会の実現に向けた製品開発・商品化を推進する。

- ▶ 信頼性の高い超高压圧縮技術（製品・サービス）の提供
  - ・水素ステーションでのトップシェアの維持
  - ・水素ステーション以外の水素サプライチェーン市場全般への販売を拡大し、圧倒的シェアを得る
  - ・カーボンニュートラル（水素以外）市場へ製品を投入し、販路を増やす

基本方針② 既存事業のQCD強化により製品競争力を高める事業を拡大する。

- ▶ PETボトル成形用圧縮機市場：アフターサービス対応力を含めた信頼性の高い製品の提供
- ▶ プラント・一般産業・電力市場：幅広いガスでの実績をベースとした個別対応製品の提供

基本方針③ ソリューション型ビジネスを志向したアフターサービスの拡大により収益力を向上する。

- ▶ 安定稼働のためのアフターサービスの提供
- ▶ ライフサイクルコストの低減

基本方針④ 超高压圧縮技術で海外市場においても存在感を示す企業となる。

- ▶ コスト競争力のある海外サプライチェーンを利用した超高压圧縮技術の提供

### 【『2023中期経営計画』目標】

経営指標	2025年度 目標
売上高	75億円
営業利益	6.5億円
純利益	4.5億円
R O E	6%

原材料高は今後も続く予想され、高まる賃上げ圧力も相まって製造業を取り巻く環境は今後も厳しさを増していくと思われませんが、当社は「2023中期経営計画」の各施策を着実に実行することで中長期的・持続的成長を実現し、厳しさを増す経済環境に柔軟に対応すると共に、来たるべきカーボンニュートラル社会の実現と、さらなる企業価値の向上に向け、真摯に取り組んでまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2023年6月

代表取締役社長  
松岡 克憲

# 事業の概況

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う規制が徐々に緩和され、回復の兆しが見られましたが、円安ドル高の進行や長期化するウクライナ情勢不安の影響による原燃料・原材料価格の高騰など、製造業において逆風が続く結果となりました。また、上記の他にも米銀の破綻を発端とした欧米の金融システム不安等、下振れリスクは依然として存在しており、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

日銀短観（2023年3月調査）によれば、2022年度の設備投資計画（全規模・全産業）は、前年度比11.4%増と高い伸びを示しており、12月調査（同15.1%増）から下方修正されたものの、前年度から大幅に持ち直すとの計画は維持されております。また、2022年度の経常利益計画（全規模・全産業）は前年度比7.9%増と、12月調査（同7.5%増）からやや上方修正された結果となりました。これは、もともと保守的に見積られていた想定を、実績が判明するにつれて上方修正された結果だと考えられます。

このような状況下、当事業年度における当社業績は、カーボンニュートラル市場向けの開発設備・試験用圧縮機の販売等により、売上高は前年同期比30.5%増の5,975百万円となりました。しかしながら、原材料の高騰等により各案件の採算が悪化傾向にあり、売上総利益は前年同期比8.7%減の1,348百万円となりました。売上総利益の減少に加え、カーボンニュートラル関連の研究開発費の増加等で販売費及び一般管理費が前年同期比6.7%増の1,111百万円となったことにより、営業利益は前年同期比45.5%減の237百万円、経常利益は前年同期比34.8%減の296百万円となりました。一方、本社総合組立工場の竣工に際し、旧工場解体費用19百万円を特別損失として計上しましたが、補助金の交付により特別利益102百万円を計上したこと等から、当期純利益は前年同期比6.8%減の288百万円となりました。

## 【今後の見通し】

今後の見通しにつきましては、原材料高は今後も続くと思われ、高まる賃上げ圧力も相まって製造業を取り巻く環境は今後も厳しさを増していくと思われま

す。このような状況下、当社は新たに「2023中期経営計画」を策定いたしました。2023年度を初年度とする3ヵ年（2023年度～2025年度）の中期経営計画であり、各施策を着実に実行することで中長期的・持続的成長を実現し、厳しさを増す経済環境に柔軟に対応すると共に、来たるべきカーボンニュートラル社会の実現に貢献いたします。詳細につきましては、「2023中期経営計画（2023年度～2025年度）について」をご参照ください。

なお、「2023中期経営計画」の初年度である2024年3月期の業績予想につきましては、売上高7,200百万円（前年同期比20.5%増）、営業利益570百万円（前年同期比140.3%増）、経常利益600百万円（前年同期比102.0%増）、当期純利益420百万円（前年同期比45.6%増）を見込んでおります。

## トピックス

### [水素ステーション等水素充填用及び水素サプライチェーン用圧縮機]

既に市場投入・販売展開している『水素ステーション用一括昇圧型水素圧縮機』（商品名HyKom340）は、定置式水素ステーションの標準仕様（吐出圧力：82MPa、吐出量：340Nm<sup>3</sup>/h）であり、数多くの優れた技術を取り入れた製品で、「令和4年度燃料電池自動車用水素供給設備設置補助事業」で交付決定された7箇所のうち5箇所受注いたしました。

また、水素サプライチェーン用圧縮機として、3月に株式会社INPEXが新潟県柏崎市で行うブルー水素・アンモニア・製造・利用一貫実証試験向けに導入されるアンモニア合成設備用の水素圧縮機をつばめBHB株式会社より受注しました。本受注をはじめとして複数件のカーボンニュートラル社会に向けた高圧圧縮機の受注を重ねています。

今後、カーボンニュートラル社会に向けて当社への期待は、超高压圧縮機の従来からの課題である機器のコンパクト化、コストダウン、消耗部品の長寿命化などに加え、燃料電池トラック用水素ステーション向けやアンモニア合成設備の社会実装に必要な圧縮機の大容量化も加わってきます。これらのニーズに応えられる製品を引き続き開発していきます。

### [株式会社三井E&S向け大容量水素圧縮機の納入について]

当社は、株式会社三井E&S（以下「MES」）の玉野事業所敷地内に建設される1,000Nm<sup>3</sup>/hrの大容量の水素ガス供給設備用の圧縮機を2023年3月に出荷しました。

本機は、前段圧縮機として当社とMESの共同開発機であるMK-A-2を使用、後段圧縮機として当社独自開発したVS-140を使用しています。概略仕様は以下となります。

	前段機	後段機
取扱ガス	水素	
型式	MK-A-2	VS-140
吸込圧力	0.6MPaG	13MPaG
吐出圧力	13MPaG (最大19.6MPaG)	35MPaG
吐出量	1,000Nm <sup>3</sup> /h	

本機においては、引き続きMESでの運転を通して高圧シール技術の性能向上などに関与していく予定であり、水素ステーション用をはじめとしたサプライチェーンに必要な高圧圧縮技術の向上開発に取り組みます。

当社は、経済産業省が脱炭素社会の実現に向けたイノベーションに果敢に挑戦するゼロエミ・チャレンジ企業の一員であり、また2020年12月7日に発足した水素社会の実現を推進する団体「水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）」の会員として、水素社会インフラ技術を担う圧縮装置の製造・販売・開発に積極的に取り組んでいます。

# 貸借対照表 (2023年3月31日現在)

# 損益計算書 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：千円)

資 産 の 部				金 額
流	現受電流	現金及び預金	971,513	
	電子記録簿	債権	71,990	
	売約	債権	851,943	
	製材	掛資産	1,579,863	
	原材	掛資産	161,892	
	預け	貯蔵品	5,680	
	その他	流動資産	1,838,622	
	倒引	当座預金	354,649	
	流動資産	合計	1,100,000	
	固定資産	合計	90,539	
固	有形固定資産	合計	△21,400	
	無形固定資産	合計	7,005,295	
	投資その他の資産	合計	3,486,710	
	固定資産	合計	125,509	
	純資産	合計	373,203	
	負債・純資産	合計	3,985,423	
	負債・純資産	合計	10,990,718	
負 債 の 部				金 額
流	支電買短	払手記録簿	132,431	
	1年内返済予定	長期借入金	719,977	
	リース	負債	256,420	
	未払	費用等	10,000	
	未払	法人税等	65,770	
	賞与	引当金	2,620	
	受注	損失引当金	215,719	
	その他	流動負債	105,090	
	流動負債	合計	253,688	
固	長期借入金	合計	143,573	
	退職給付引当金	合計	122,100	
	その他	固定負債	168,869	
	固定負債	合計	2,196,259	
	負債	合計	1,434,230	
	純資産	合計	9,170	
	負債・純資産	合計	548,927	
	負債・純資産	合計	7,000	
	負債・純資産	合計	1,999,327	
	負債・純資産	合計	4,195,587	
株 主 資 産 の 部				金 額
株	資本金	1,440,000		
	利益剰余金	1,203,008		
	自己株式	4,262,921		
	株主資本	△110,744		
	換算差額	6,795,186		
	純資産	合計	△55	
	負債・純資産	合計	6,795,130	
	負債・純資産	合計	10,990,718	

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	5,975,649
売上原価	4,627,001
売上総利益	1,348,648
販売費及び一般管理費	1,111,477
営業利益	237,170
営業外収益	70,144
営業外費用	10,321
経常利益	296,993
特別利益	102,400
特別損失	20,303
税引前当期純利益	379,090
法人税、住民税及び事業税	113,217
法人税等調整額	△22,640
当期純利益	288,513

(注) 1株当たり当期純利益(期中平均発行株式数による) 174円35銭

# キャッシュ・フロー計算書(要旨) (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：千円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	380,691
投資活動によるキャッシュ・フロー	△611,359
財務活動によるキャッシュ・フロー	430,951
現金及び現金同等物の期末残高	971,513

# 業績ハイライト

## ■ 売上高 (単位：百万円)



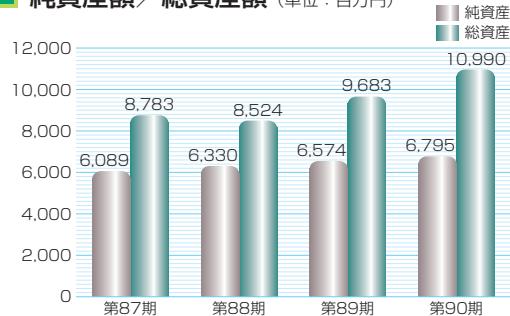
## ■ 経常利益 (単位：百万円)



## ■ 当期純利益 (単位：百万円)



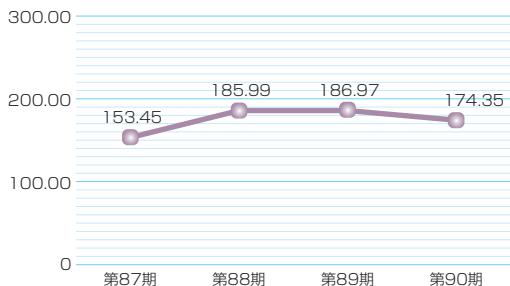
## ■ 純資産額／総資産額 (単位：百万円)



## ■ 1株当たり純資産額 (単位：円)



## ■ 1株当たり当期純利益 (単位：円)



## 会社の概要

社名 株式会社加地テック  
 KAJI TECHNOLOGY CORPORATION  
 創立 明治38年5月(1905年)  
 会社設立 昭和9年2月(1934年)  
 資本金 14億4,000万円(東京証券取引所スタンダード市場上場)  
 製造品目

空気及びガス圧縮機  
 水冷・空冷式圧縮機  
 給油・オイルフリー・オイルレスタイプ圧縮機  
 石油化学・産業ガス用  
 電力・試験・一般産業用  
 PETボトル成形用  
 天然ガス自動車燃料充填用  
 燃料電池自動車燃料充填用  
 各種ガス回収精製装置

所在地 本社・工場  
 〒587-0064 大阪府堺市美原区菩提6番地  
 TEL: 072-361-0881 (代表)  
 FAX: 072-362-4491 (人事総務部)

東京支社  
 〒134-0086 東京都江戸川区臨海町3丁目6番4号  
 ヒューリック葛西臨海ビル4階  
 TEL: 03-5679-6910 (代表)  
 FAX: 03-5679-6950

## 株主の状況

### 【大株主の状況】

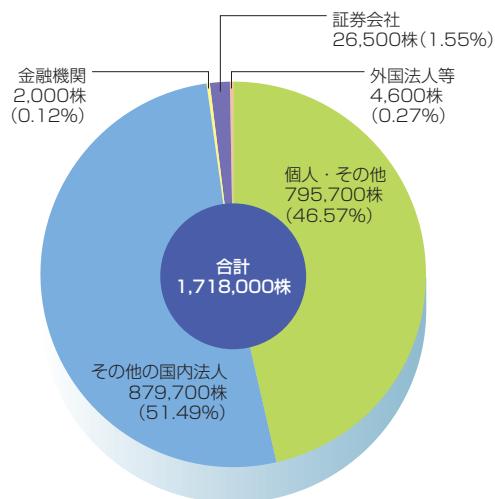
株主名	持株数	持株比率
株式会社三井E&Sホールディングス	844,546株	51.04%
加地取引先持株会	36,100	2.18
松原佐多子	17,653	1.07
加地テック役員持株会	10,690	0.65
曾山邦子	10,600	0.64
株式会社SBI証券	9,400	0.57
桜井昭一	9,300	0.56
坂本憲彦	9,000	0.54
株式会社フジヨシ	8,500	0.51
大岩亨江	7,879	0.48

(注1) 当社は、自己株式63,265株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。

(注2) 持株比率は自己株式63,265株を控除して計算しております。

(注3) 持株比率は、小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しております。

### 【所有者別株式の分布状況】



(注) 上記株式数には、単元未満株式9,500株は含まれておりません。

## 役員 (2023年6月27日現在)

## 株主メモ

### (取締役及び監査役)

代表取締役社長	松岡克憲
取締役	小山幸広
取締役	塩口修治
取締役	福田慶実
取締役	前田洋輔
取締役	中塚秀聡
常勤監査役	立花勝
監査役	飯塚芳正
監査役	多田敏夫

- (注) 1. 前田洋輔氏、中塚秀聡氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
2. 飯塚芳正氏、多田敏夫氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

### (執行役員)

最高経営責任者 (CEO)	松岡克憲	
執行役員	小山幸広	監査部担当
執行役員	塩口修治	経営企画室・財務経理部担当
執行役員	片山秀樹	設計部担当
執行役員	田邊雄三	アフターサービス部担当
執行役員	牧義男	品質保証部担当
執行役員	浦田洋	営業部担当、東京支社長
執行役員	二宮庸輔	人事総務部担当
執行役員	片山秀昭	生産部・生産管理部担当

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
上場金融商品取引所	東京証券取引所スタンダード市場
株主名簿管理人兼特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付及び電話お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
特別口座管理機関取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載) [アドレス] <a href="https://www.kajitech.com">https://www.kajitech.com</a> ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。